

# 性感染症定点の設定について

# サーベイランスの目的

- 発生動向を把握し、解析、情報還元することで、感染症に対する、有効かつ的確な予防対策を図り、感染症の発生・拡大を防止するもの

## 的確な発生動向とは

- 自治体、国における感染症患者の実態や経時的推移を掴むこと
- 各自治体からのサンプリングをどうしたら、過小過大評価にならない的確な把握になるかが課題

# 現行の選定基準

(感染症発生動向調査事業実施要綱)

- 五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、都道府県は、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。
- 定点数(人口規模に基づいて設定)

保健所管内人口	定点数
~7.5万人	0
7.5万人~	$1 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 13\text{万人}$

- 診療科名（以下の診療科の医療機関を選定）
  - ・ 産婦人科若しくは産科若しくは婦人科
  - ・ 性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）
- \* 約2割が自治体主導、約7割が医師会に選定を依頼している（H23. 2自治体調査）

# 論点の所在

- 感染症発生動向調査においては、定点の患者数から全体を推計できるように無作為に抽出することとしている。
- 性感染症定点医療機関の設定方法に関する研究(H18年度)においては、一部の医療機関に患者が集中する傾向があることから、地域的にみると定点医療機関への受診が少ない場合がある。
- 7県で全数調査を行った研究によると、7県の合計では、定点による把握と全数による把握との間で実態に大きな差はなかった。

# 考えられる選定基準

- 案1 現行どおり
- 案2 現行基準に層化条件を明確化
- 案3 現行条件に患者診療実績条件を追加
- 案4 現行条件に診療科名を追加
- 案5 定点数を増加

案2	メリット	デメリット
現行の定点設定に層化条件を明確化 ・診療科のバランス ・病院・診療所のバランス	診療科(産婦人科系、泌尿器科、皮膚科系)、病院・診療所のバランスを考慮することができる	小規模な保健所管内ごとでは、バランスを考慮することが難しい場合がある

案3	メリット	デメリット
患者診療実績が多い診療所(病院)を選定	性感染症は一部の診療所に患者が集中すると言われていたので、そこを選定すると経時的な患者数の増減が把握できる	バイアスがかかり、過大評価になる可能性がある 疾病の種類によって、患者の傾向が偏る可能性がある 多くの都道府県では、そもそも患者の診療実績が不明

→ 多くの都道府県では実態把握が困難であり、また実施した場合のデメリットも大きいのではないかと懸念される。

案4	メリット	デメリット
診療科名に内科も追加し 選定	性感染症を内科で診察する 場合もあり、漏れなく発 生動向を掴むことにつな がる	先行研究の一部のデー タでの結果であり、内科 での診療実績の実態が明 らかでない 定点をより患者の少ない 医療機関に分散させるこ とになる

→ 定点とすることのメリットが小さいのではないか。

案5	メリット	デメリット
定点数を増加させる	より正確な把握ができる	必要な予算が増加する ことも課題 医療機関の協力を得るこ とがより困難

→ 実施することは難しいのではないか。